

資料のコーナー：障害福祉関係ニュース（平成30年度8号より記事抜粋）**国の行政機関における障害者雇用に係る事案に関する検証委員会報告書（平成30年10月22日）概要**

1. 厚生労働省（職業安定局）に対する調査結果

- 国の行政機関における障害者雇用の実態に対する関心の低さ
- 制度改正等を踏まえた障害者の範囲や確認方法等についての対応の不手際
 - ・平成17年のガイドライン発出時における対応の問題
民間事業主向けのガイドラインを、制度の異なる国の行政機関向けに所要の手直しを行うことなく、そのまま送付していた。
 - ・毎年の通報依頼発出時における対応の問題
「原則として」身体障害者手帳により確認と記載するのみで、例外について具体的な記載がないなどの不明確な内容の通知を発出し続けた。
 - ・確認資料の保存及び引継ぎに対する指導の欠如
民間事業主には省令に基づく保存義務が明確であったが、国の行政機関には指導しなかった。
 - ・平成26年の独法虚偽報告事案発生時における対応の問題
独法における障害者雇用状況の虚偽報告事案は、現時点から振り返ると、国の行政機関の実態を確認すべき重要な機会であった。

2. 各行政機関に対する調査結果

- 対象障害者の計上方法についての正しい理解の欠如
- 対象障害者の杜撰な計上
 - ・独自の実務慣行を安易な前例踏襲により引き継いでいた
- 障害者雇用促進法に対する意識の低さ

3. 検証結果

- 民間事業主に率先して障害者雇用に積極的に取り組むべきことは当然の責務であるにもかかわらず、多くの国の機関で障害者雇用を促進する姿勢に欠け、相当数の対象障害者の不適切計上があったことは極めてゆゆしき事態。
- 厚生労働省（職業安定局）側と各行政機関側の問題があいまって、大規模な不適切計上が長年にわたって継続するに至ったものと言わざるをえない。

公務部門における障害者雇用に関する基本方針（案）の概要

1. 今般の事態の検証とチェック機能の強化

- (1) 今般の事態の検証
 - ・第三者による検証の場「国の行政機関における障害者雇用に係る事案に関する検証委員会」を設置
- (2) 再発防止のための対策
 - 厚生労働省における取組
 - ・障害者雇用促進法に基づく実務、再発防止のための取組に係る留意事項を示した手引きを作成
 - ・各府省からの通報を受けるに当たってチェックシートの提出を求め確認
 - ・各府省の関係書類等について必要な調査を行い、障害者の範囲や確認方法等が適切かを確認 等
 - 各府省における取組
 - ・本府省のみならず地方支分部局等でも再発防止策が継続して実施されるようフォローアップを実施
 - ・通報対象となる障害者の名簿を作成するとともに、障害者手帳の写し等の関係書類を保存
 - ・実地確認やヒアリングにより、内部点検を実施
 - ・不適正な事務処理を未然に防止するため、複数の職員によるチェック等の体制強化 等
 - チェック機能の強化に向けた更なる検討
 - ・引き続き法的整備を視野に入れた検討を行うとともに、各機関が自ら障害者の任免状況を公表する仕組みを検討

2. 法定雇用率の速やかな達成に向けた計画的な取組

- 平成31年末までの障害者採用計画を策定
- 府省内の体制整備、採用活動及び職場定着等に関する具体的な計画を策定
- 障害者雇用に関する理解の促進（合理的配慮指針、障害者雇用マニュアルの整備 等）
- 採用計画を着実に進捗させるための取組及び支援策（ハローワークにおける職業紹介 等）

← 3面に続きます

3. 国・地方公共団体における障害者の活躍の場の拡大

- 障害者が活躍しやすい職場づくりの推進(相談窓口の設置、支援者の配置 等)
- 障害者がいきいきと働きやすい人事管理の在り方の検討(フレックスタイム制やテレワーク勤務 等)
- 障害者の自立の促進や民間における障害者雇用に資する取組の推進

4. 公務員の任用面での対応等

- 障害者を対象とした常勤採用の枠組み
 - ・人事院が能力実証等の一部を統一的に行う障害者を対象とした選考試験を新たに導入
 - ・各府省の個別の選考採用も並行して実施
- 「ステップアップ制度」の枠組みの導入
 - ・非常勤職員として勤務後、選考を経て常勤職員となることを可能とする
- 常勤職員として採用予定の者について、本人の希望に応じ、採用前に非常勤職員として勤務できる「プレ雇用制度」の導入
- 非常勤職員について、障害特性等に応じた適切な対応を図る観点から、雇用の安定確保等に関する運用指針を策定
- 上記施策の推進に必要となる定員・予算については適切に措置

5. 今後に向けて

- 閣僚会議等政府一体となって推進する体制の下でフォローアップを行い、取組を着実に推進
- 法定雇用率の達成に留まらず、障害のある方が意欲と能力を発揮し、活躍できる場の拡大に取り組み、今後も政府一体となって障害者の雇用を不断に推進

障害福祉関係ニュース平成30年度8号より抜粋



講師として参加：県育成会田中理事長

沖縄水産高校での講義

沖縄県の「平成30年度心のバリアフリー推進事業」として、11月19日(月)に沖縄水産高校福祉サービス系の20名の生徒にタウンミーティングを行いました。

「あなたの心のバリアフリーはなんですか?」とのテーマで、福祉サービス系のクラスに進学した動機や、現在の心境などについての意見を聞きながら、今後の進路などについても語り合いました。

福祉施設などでの実習も経験され、優しさたくましさに溢れた学生達は、今後の沖縄の福祉を支える担い手になれると期待しています。



理事通信

「親心の記録」について

副理事長 保良 榮長



以前に新聞紙上で「親心の記録」の紹介記事がありました。障がいのある子を持つ親たちの「親亡き後」に障がい者(子)が安心して生活を送れるようにと、支援する人達に記録を残す為の書式(冊子)の紹介でした。

作成したのは(一財)日本相続知財センターグループ(東京)で、千葉県等の手をつなぐ育成会が発行販売する「親心の記録」を参考に作成し、同法人が全国から寄付を集めて作成、無償で配布しています。内容はまず、本人の名前・年齢、障がいサービス等の基本事項に、本人をよく知る人や緊急連絡先、障がい特性、てんかん等の突発的なリスクの予防や対応、医療・利用施設、日常生活の様子等の記録を作って、支援する方が利用しやすいように30頁の冊子になっています。(見本は県育成会にあります。)

沖縄県でも「発達障害支援法」に合わせて「新サポートノートえいぶる」という冊子(ファイル)を配布しており、これは本人のプロフィールから保育、小、中、高、就労等の各ライフステージにおける記録を一冊のファイルにまとめ、さらに県や市町村の相談支援関連リスト等が詳しく紹介され、発達障がいを主な対象に作られ、記録が細部に渡っています。ファイル式で記録の取り外しが自在にしやすい反面、高齢者には馴染み難い様式になっています。

いずれも障がい者に関して将来の生活や支援に欠くことのできない記録、資料となるもので「備えあれば、憂いなし」。親亡き後に悔いを残さないよう、それぞれで出来るだけ備えておきたいものです。

理事長行事報告 11月

- ☆11月14日(水) 沖縄県青年会館 全国事業所協議会沖縄大会会場打合
- ☆11月17日(土) てだこホール 心のバリアフリーシンポジウム
- ☆11月18日(日) 那覇市育成会 那覇市育成会虐待防止研修会
- ☆11月19日(月) 沖縄水産高校 沖縄県タウンミーティング
- ☆11月20日(火) 沖縄県総合事務局 沖縄県バリアフリー推進会議
- ☆11月21日(水) 沖縄県総合福祉センター 沖縄県権利擁護・虐待防止研修③
- 県外
- ☆11月29日(木) 千葉県 全国育成会権利擁護セミナー

理事長行事予定 12月・1月

- ☆12月7日(金) 県庁 平成30年度障害者週間の集い
- ☆12月14日(金) 沖縄市民会館 平成30年度県事業所協議会交流会
- ☆1月4日(金) 沖縄県総合福祉センター 沖縄県福祉関係団体新年交流会
- ☆1月24日(木) 浦添市 浦添市自立支援協議会研修会
- ☆1月25日(金) 那覇市 全国育成会事業所協議会運営委員会
- ☆1月26日(土) 沖縄県青年会館 平成30年度全国育成会事業所協議会 沖縄大会

『手をつなぐ・うちな〜』編集者
 理事長：田中寛
 事務局：高原奈々・東江早苗

田中理事長のゆんたく広場

1964年、今から54年前の事です。東京の代々木公園に設立された東京オリンピック選手村で、当時中学生だった私は、友人と他国選手にサインをねだりました。

やっと思つた選手らしき人に、照れながら「ブリーズ、サイン」という単語を重ねて差し出したサイン帳に、快く受け入れ書いてくれたページには、見たこともないカナ釘のような文字があり、国名も選手名も分からぬままお礼を告げた記憶があります。

そして、1970年の48年前に20歳で参加した大阪万国博覧会。当時の平均月収が約5万円の時代の大人入場料は、確か八百円だった気がします。そして入場者の混雑に嫌気がさした大学生の私が、その後人が大勢集まる催しを避けるきっかけになったのも、この大会でした。

あと2年と7年、もしまだ自身が健康なうちに開催されるのであれば、もう一度参加を検討してみることにはしたいと思っています。(笑)

『手をつなぐ』配布募集

機関誌「手をつなぐ」は、中央情勢・各地育成会の活動、また特集コーナーで、教育・福祉・就労・医療等の最新の情報がわかりやすく掲載されています。

お申込みご希望の方は、県育成会まで一度ご連絡下さい。
 *年間購読料 3,900円



平成30年度チャリティゴルフ大会 報告会・寄付金贈呈式

10月1日(月)に開催された平成30年度沖縄県ゴルフ大会(水)県総合福祉センターにて、おわれした。チャリティ収益金の約5万円は、育成会に寄付いたしました。報告させていただきます。



ありがとう

沖縄県手をつなぐ育成会運営資金造成を目的として「公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会チャリティゴルフ大会」を平成30年12月1日(土)〜平成31年2月28日(木)まで開催致します。

当育成会としても会費の増額、会員の拡大、賛助会員の募集等自主財源の確保に最大限の努力はしてまいりますが、財政は大変厳しい状況にあり、その運営資金には苦慮しております。このようないきなり状況を打開、支援することを目的として、チャリティゴルフ大会を開催しておりますので、皆様のご協力、ご参加によるご支援をお願い致します。

【開催期間】
 平成30年12月1日(土) ~ 31年2月28日(木)
 ※年末年始はご利用できませんので、日程は各会場にご確認下さい。

宜しくお願いします

